

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年5月1日

【評価実施概要】

事業所番号	2277102287
法人名	株式会社 脳リハビリネットワーク
事業所名	ねんりんはうす西都台
所在地 (電話番号)	浜松市西区志登呂町5331-6 (電話) 053-449-6900

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成20年12月12日

【情報提供票より】(2008年11月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算	16人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) 単独	(新築) 改築
建物構造	鉄骨造り	
	4階建ての	3階 ~ 4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(420,000円)	有りの場合 償却の有無	有/5年	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
1日当たり 1,840円				

(4) 利用者の概要(11月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.3 歳	最低	72 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県西部浜松医療センター ・ 高橋内科医院 ・ 酒井歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは畑が残っている新興地住宅地の中にあり、開設5年目を迎える。全国で初めての脳リハビリを特色とした早期認知症改善施設として、認知症予防・改善に取り組んでいる。「その人が楽しく生活できるように・笑顔を引き出せるような援助」を目標に、職員と入居者が共に楽しく安心して過ごせるよう支援している。また、地域との交流にも積極的に取り組んでおり、地域の住民に受け入れられているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	居住空間が3階~4階で、外出時のエレベーター使用時に暗証番号の入力が必要であり、利用者に不都合をきたしたため、暗証番号を利用者の見やすい所に表示し、改善を図っている。また、日課として、職員の見守りの中、毎朝の散歩を支援している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、各職員から意見を集めて、管理者が集約している。自らを振り返る機会として、自己評価の意義を理解し、職員全体で取り組むことができた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者代表、家族代表、市職員、自治会長、民生委員、ホーム職員等が参加し、2ヶ月に1回開催している。会議を通して、地域との結びつきが深まっており、今後も多くの地域住民がメンバーとなることによって、よりホームへの理解が深まることが期待できる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議に家族の参加もあり、ホームの現状や利用者の日常生活を知ってもらうことで、苦情や意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。また、意見箱を玄関に設置し、苦情が出た際は苦情処理検討会議で解決に向けて話し合っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	買い物や毎日の散歩は、近隣の方と接する良い機会と捉えて、積極的に挨拶や声かけを行っている。また、自治会にも入会し、祭りなどの行事に参加する等、交流を図っている。なお、ホームでの防災訓練は消防職員や自治会長の参加を得て、地域との連携を深めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の人格を尊厳した介護サービスの提供を理念としている。医療顧問の医師が開発した脳リハビリプログラムをより高度で最適な形態で提供し、多くの利用者や家族は、認知症予防・改善を目的に入居している。	○	利用者をはじめ、誰でもがわかりやすい言葉で表現し、事業所独自の理念を取り入れていくことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの特徴である脳リハビリについて 全職員が理解し、職員会議等で定期的な確認を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員であることを認識し、自治会の行事にも積極的に参加している。散歩中の会話や、祭り・清掃・公園の草取り等の自治会活動を通して、地域の方々と交流を深めることに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価及び外部評価の意義を理解しており、自己評価によって、自分自身の足りない点を再確認し、今後のケアの改善に取り組んでいる。また、外部評価の結果を全職員で確認し、今後の課題改善に向け、取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、開催している。家族や職員は順次交代で参加し、自治会長・民生委員・派出所所長等の参加が得られている。会議の中で、入居者の状況や行事等を説明し、ホームへの理解や地域との関係が深まるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域の認知症に対する理解が深まるよう、市主催の民生委員研修会への講師派遣を行う等、必要に応じて浜松市西区役所職員と連携を取っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が来訪する際、利用者の近況を伝えるように努めている。毎月の請求書等の発送に併せて健康状態や定期的な受診結果を記録し、報告している。また、季節ごとにお便りを発行している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議への参加や意見箱の設置など、意見が出しやすいような工夫をしている。また、出された意見について、運営やサービスに反映させるよう職員間で話し合っている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は職員交代による利用者へのリスクを十分に理解しており、離職を抑えるために、日々職員と話し合いをしている。最近は離職者もなく、利用者との安定した馴染みの関係が築かれている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修は研修計画に基づいて実施している。外部の研修へは交代で参加し、出席できない職員へは、参加者の復命により職員間の共有を図っている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内での職員交流や研修を定期的に行っている。また、浜松市内のグループホームとのネットワークがあり、共同で施設訪問や研修会を行い、情報・意見交換を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム顧問医師への受診後、一日の生活プログラムを説明し、理解を得て入居となっている。初期レベルの認知症の利用者が多いため、ホームでの生活へスムーズに移行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の生活歴を十分把握した上で接している。農業に携わった利用者から野菜の種まきの時期を教えてもらって畑作りをしたり、食事の味付けができる利用者から調理方法を教わるなど、職員と利用者はお互いに支え合って生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩の際などの機会を捉えて利用者から思いや希望を聞き出し、一人ひとりに合った支援ができるよう、一日のプログラムを作成している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いを引き出し、本人・家族を交えて、脳リハビリをしながら、認知症の予防・改善ができるような介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりの現状に即した介護計画の見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診、美容院や図書館への付き添い等、外出支援を行っている。また、併設の「脳リハビリセンター」で行われている音楽療法やゲーム等にも参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期検診や緊急時の対応は、利用者や家族と話し合っ、適切な医療を受けられるよう努めているとともに、常勤の看護師が日々の健康管理に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの終末期の対応はなく、重要事項説明書にも記載している。看取り対応方針により、利用者や家族へ説明し、了解を得た上で入居となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳や人格を尊重し、プライバシーを守ることの大切さを職員が十分に理解した上で、言葉かけやトイレ誘導等の対応に配慮している。また、個人情報についても、適切な管理を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のリズムを理解し、利用者が望む生活の実現に向けて取り組んでいる。利用者が友人と一緒に食事に出かけることもあり、希望に沿った支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は和やかな雰囲気、食事の支度・片付け等を一緒に行っている。また、食事に時間がかかる利用者には職員が付き添って、声かけや見守り対応を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿った入浴を支援している。全体的に日中の入浴が多いが、夜間帯に入浴する利用者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	電子ピアノを職員が弾き始めると利用者も一緒に歌ったりしている。読書や編物など、一人ひとりの思いに沿った支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日午前中は散歩に出かけている。散歩の中で、畑で作業をしている人に声かけたり、公園の草取りをしたり、喫茶店に寄ってお茶を飲んで帰ることもある。また、個々の希望に添って、図書館に行くなど、外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害をよく理解し、鍵をかけていない。ホームの居住空間は3・4階のため、外出時はエレベーターに暗証番号の入力が必要であるが、利用者もテンキーを入力し、エレベーターを使用している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元消防署や自治会と連携を取り、昼間及び夜間の訓練をしている。	○	今後も、多くの地元住民の協力が得られるように働きかけていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養バランスに配慮した工夫がなされている。また、水分・食事摂取量をチェック表に記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	管理者は設計の段階から関わり、居室、居間、トイレなど、家庭的な雰囲気が感じられる配置となっている。また、ホーム内に観葉植物を配置し、快適な生活空間づくりを工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの掃除用具があり、毎朝、職員の見守りの中、利用者が自室の掃除を行っている。居室は、ベッドを始め、使い慣れた生活用品が持ち込まれている。		